

【プラットフォームの展開】

今後のIoP推進機構、並びにプラットフォーム展開の検討について

I 高知県が優位性を持つ施設園芸農業について、産学官の積極的な連携のもと、農業者に有益な情報を提供するデータ連携基盤（以下「IoPクラウド」という。）を構築し、IoPクラウドの効果的運用による最先端の研究開発や先進的な人材育成、他分野との協業による技術革新やビジネス創出（「IoPプロジェクト」という。）を促進することで、**本県施設園芸農業の飛躍的发展と施設園芸関連産業群の育成・集積**を実現するとともに、**高知大学、高知工科大学及び高知県立大学の魅力向上**を目指す。

- 各IoPプロジェクトKPIの達成
- 高知県の施設園芸農業、大学、（税収増等による）経済等の振興

II 「Next次世代型連携プラットフォーム」*の構築と運用

*生産性向上（面積当たりの収穫量UP・作業効率UP）、高付加価値化・流通販売強化（販路拡大・Super4定）

などの方針に基づき、農業生産、流通、販売に関わる様々な事業者や機関等が連携し、生産者から消費者に至るまで農業に関係するあらゆる人々を豊かにしていくための一気通貫のプラットフォーム（IoPクラウドがその中心となる）。また将来的にはこれを高知県の資産に昇華させ、他の一次産業への応用や県外・海外展開も目指す。

- 目的 I を達成するための手段でもある
- 資産化：農業全般、漁業、林業等への応用→高知県をSociety5.0型一次産業のメッカに
：他県、海外への展開→更なる高知県経済への貢献

① 今までは、農業振興部の本来ミッションや**人的リソース**の都合上、IoPクラウドの構築を優先。→プラットフォームとしては何もできていない。



①' **人的リソースの確保**

② 内閣府も求めるIoP プラットフォームの自走に向けて、**どんな組織体制、またどんなスキームで運用**していくかがまだはっきりと決まっていない。



②' **プラットフォームの構築・運用・自走に向けた最適な組織検討**

③ 交付金申請時の計画上、研究への予算配分が多く、**プラットフォームの予算を確保できていなかった**。



③' **プラットフォームに必要な予算の確保**

④ IoPプラットフォームは民間企業の声聞きながら、また同時に巻き込みながら（最終的にプラットフォーム上でビジネスをしてくれる具体的な企業の目途を立てながら）、機能開発していかないとはいけませんが、**それがまだできていない**



④' **プラットフォームチームの予算・人的リソースを確保した上で、民間との連携強化を図る**